

# およその数

し しや ご にゆう  
〈四捨五入物語〉

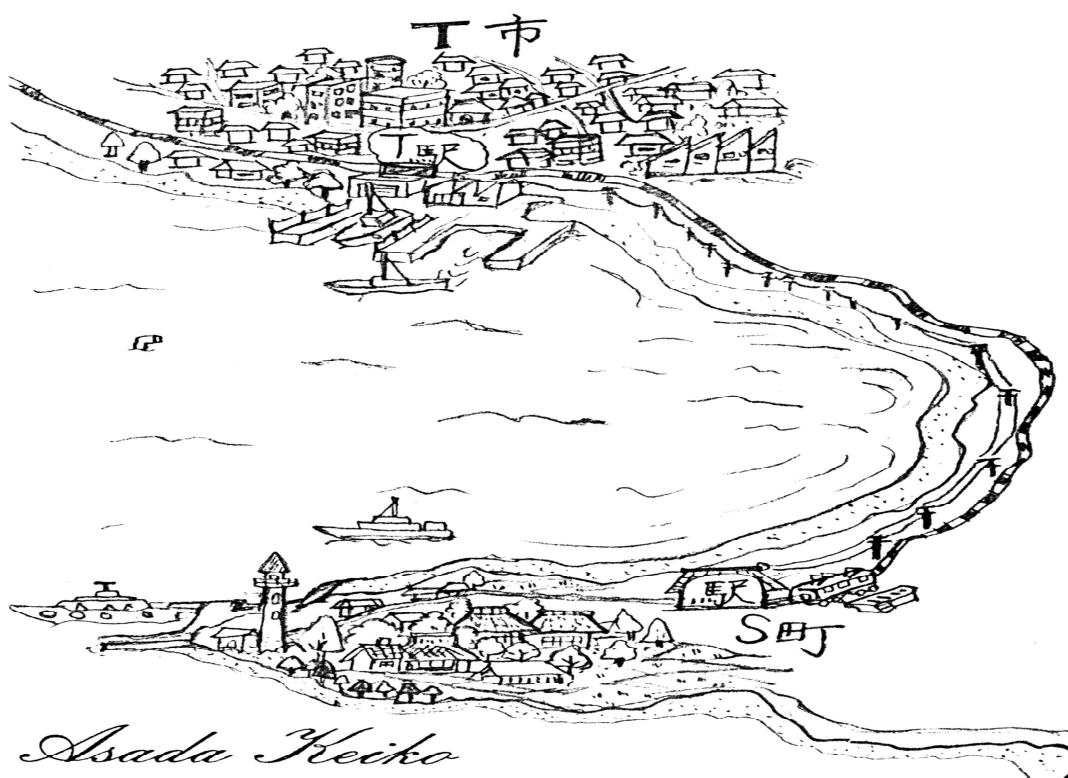
\_\_\_\_年\_\_\_\_組 なまえ\_\_\_\_\_

## ■プロローグ

### 【おはなし1】

S町は海<sup>うみ</sup>辺にある小さな町です。海につき出た半島<sup>はんとう</sup>の先にあつて、海をはさんだ向かい側にはこの辺りで一番大きな都市・T市があります。

S町からT市へ行くためには、半島のつけねまで行ってから電車に乗らなければならない2時間もかかります。ところが船を使って海をわたると、たったの10分でT市に着くのです。



そんなS町に船会社がやってきて〈わたし船〉を始めたのは、今から40年も前のことでした。

## ■第 I 章

### 【おはなし 2】

その船会社は10人乗り, 20人乗り, 30人乗り, 40人乗り, 50人乗り…とたくさんの船を持っていました。そして、その船を使ってS町の人をT市まで運ぶ仕事を始めたのです。町人は「これは便利になった!」とよろこび、さっそく船に乗りに出かけたのでした。

ところが町の人たちが船着き場で見たのは次のようなかん板<sup>ばん</sup>でした。

**わたし船は10人にならないと出発しません。悪<sup>あ</sup>しからず。**

町の人たちは、びっくりぎょうてん!

Aさん「これは10人をこえていたら何人でも乗せてくれるということかな?」

Bさん「いや、10人とか20人とかのキリのいい人数でしか運ばずに、はんばな人数はおいてけぼりになるんとかやうか?」

などと話し合いましたが「ここでブツブツ言ってもはじまらん」と船会社に行って説明を聞くことにしました。

Aさん「社長、あのかん板はどういう意味ですか?」

社 長「私んトコには10人乗り, 20人乗り…とたくさんの船がありますが、船長<sup>せんちょう</sup>が1人しかいないので、しかたなしに10人でくぎりたいと思います」

Bさん「ということは、17人の客がおったら20人乗りの船で運んでくれるんですね?」

社 長「いや、すんませんが、そういうときは7人の人にはガマンしてもらって、10人乗りの船で運ばせてもらいます」

Aさん「そんな〜。17人なら20人乗りの船を出せば運べるのに…」

社 長「そんなアマイことしてたらもうかりまへんがな」

町人はしかたなく引き下がったのでした。

**【問題 1】**

①33人の人が船着き場に来ました。何人乗りの船が出るのでしょうか？

[ ]

②49人の人が船着き場に来ました。何人乗りの船が出るのでしょうか？

[ ]

③8人の人が船着き場に来ました。何人乗りの船が出るのでしょうか？

[ ]

**【質問 1】**

9人の人が船着き場で待っていましたが、しばらく待ってもあと1人がきそうにありません。そこで、9人でも10人乗りの船を出してくれるようにたのんだのですが、「10人にたりないので船は出せません」と、ことわれました。あなたがお客だとしたらどう思いますか？

[ ]

**【質問 2】**

こんなことをつづけていると船会社はどうかと思いますか？

[ ]

### 【おはなし3】

船会社のやり方は町の人をととても困らせました。そればかりか、船に乗せてもらえなかった人たちはカンカンにおこりました。特に、8人とか9人で残された時には「もうひとつ大きな船を出して乗せろ！」とどなったりしました。そのうち町の人のおほとんどがおこりだして、ついにはだれも船に乗らなくなってしまいました。

さあ、こまったのは船会社です。何しろ、お客が乗ってくれないことには商売になりません。そこで、今度はこんなかん板を出しました。

**今まではゴメンナサイ。これからは人数にあわせて大きい船で運びます。もうしわけありませんでした。**

かん板を見た町人は「これでいつでもT市へ買い物に行けるゾ！」と大よろこび。ドンドン船を使うようになったのです。

### 【問題2】

①19人の人が船着き場に来ました。何人乗りの船が出るでしょう。

[ ]

②23人の人が船着き場に来ました。何人乗りの船が出るでしょう。

[ ]

③1人の人が船着き場に来ました。何人乗りの船が出るでしょう。

[ ]

### 【質問3】

たった1人のお客に10人のりの船を出していて、船会社はもうかるのでしょうか？ あなたはどう思いますか？

[ ]

**【おはなし4】**

今度の会社のやり方に町の人は大満足でした。これでこまることが無くなったからです。

ところが、車を持つ人がだんだん増えてくると、渡し船に乗る人が少なくなってきました。でも、1人でもお客がいればわたし船は出さなくてははいけません。ついに船を出してもうかるお金よりも、船を動かすためのお金(燃料など)のほうが多くなってしまいました。

**【質問4】**

船会社はいったいどうなってしまうのでしょうか？

[ ]

## ■第Ⅱ章

### 【おはなし5】

町の人たちの心配していたことがついに起こりました。船着き場に次のようなかん板が出たのです。

町のみなさんの<sup>きぼう</sup>希望にあわせ、たとえ1人でもわたし船を出してきましたが、もうアキマヘン！ 全ぜんもうかりまへん！！  
会社がつぶれる前に、わたし船はやめることにします。

乗る人が少なくなっていたとはいえ、町の人にとって〈わたし船〉は大切なものでした。特に、車を持っていない人、体の弱い病人やお年より、それからT市の学校に通っている子どもたちにとって、わたし船が無くなるのは大問題でした。そこでもう1度、船会社へたのみにいきました。

Aさん「社長、何とかわたし船を続けてもらえませんか？」

社 長「アキマヘン。1人や2人のために船を出しとったんでは、ムリですワ」

Bさん「そうですか…。それじゃあ、何人ぐらいやったら<sup>そん</sup>損せんのですか？」

社 長「う～ん、そうやなあ～。まあ、7人やなあ～」

Cさん「7人？ ちょっと多すぎるで。3人ではダメですか？」

社 長「アカン、アカン、1人も2人も3人もいっしょや」

### 【質問5】

話はなかなかまとまりません。でも社長も町の人も何とかしようと考えています。あなたは何人ぐらいで折り合<sup>お</sup>い<sup>あ</sup>をつけたらよいと思いますか？

〔 \_\_\_\_\_人ぐらい      ；      その理由は？      〕

【おはなし6】

社長と町の人のお話し合いは夜おそくまでつづきました。

社 長「そしたら、6人で出すことにしましょう」

Bさん「6人？ 4人くらいで何とかありませんか？」

社 長「4人？ そんなん、商売あがったりや！」

Cさん「じゃあ5人！ 5人で何とかして下さい!!」

社 長「う～ん…」

Bさん「おねがいします、社長！」

社 長「…わかった、わかりましたよ、それでいきましょ」

Aさん「そしたら、はんばい人数が4人の時はお客さんにガマンを  
してもらって、5人以上やったら大きい船を出すという  
ということですか？」

社 長「そうです。苦しいけど、それでいかせてもらいます。その  
かわり、わたし船をドンドン使ってくださいよ」

全 員「わかりました！」

ということで、船会社はわたし船をつづけることになったのでした。



【問題 3】

①17人の人が船着き場に来ました。何人乗りの船が出るでしょう。

[ ]

②21人の人が船着き場に来ました。何人乗りの船が出るでしょう。

[ ]

③44人の人が船着き場に来ました。何人乗りの船が出るでしょう。

[ ]

④55人の人が船着き場に来ました。何人乗りの船が出るでしょう。

[ ]

⑤98人の人が船着き場に来ました。何人乗りの船が出るでしょう。

[ ]

⑥116人の人が船着き場に来ました。何人乗りの船が出るでしょう。

[ ]

## 【おはなし7】

船会社の話は、これでおしまいです。おもしろかったですか？

さて、算数・数学の言葉では、はんばのお客を残して船に乗せないようなやり方（例えばお客が27人いても20人乗りの船を出すやり方）を〈切り捨<sup>す</sup>て〉と言います。はんば(わたし船の場合は十の位<sup>くらい</sup>以下の数)を〈切<sup>す</sup>って〉〈捨<sup>す</sup>てる〉という意味です。

反対にはんばはぜんぶ上の位に入れるやり方（例えばお客が34人なら40人乗りの船を出すやり方）を〈切り<sup>あ</sup>上げ〉と言います。

そして最後に話し合いで決めた「お客さんが14人だったら10人乗りの船を出す。25人だったら30人乗りの船を出す…」というようなやり方を〈四捨<sup>し</sup>五<sup>し</sup>入<sup>ご</sup>に<sup>に</sup>ゆ<sup>う</sup>〉と言います。はんばの数が4までだったら切り捨<sup>す</sup>て(四以下は捨<sup>す</sup>てる)、5より大きかったら切り上<sup>あ</sup>げる(五以上は入<sup>い</sup>れる)、というやり方です。

また〈切り上げ〉〈切り捨<sup>す</sup>て〉〈四捨<sup>し</sup>五<sup>し</sup>入<sup>ご</sup>に<sup>に</sup>ゆ<sup>う</sup>〉などをつかって求めた「だいたいの数」「およその数」のことを〈<sup>すう</sup>ろし、<sup>すう</sup>数〉といい、「だいたい200人」とか「およそ300円」を、「<sup>やく</sup>約200人」とか「<sup>やく</sup>約300円」と言います。

< おしまい >

〔 この物語は、香川県の石原清貴さんに教えていただきました。 〕  
(1997年5月版)